

スマートICは サービスエリアやパーキングエリアと 地域社会をつなぎます



コンパクトサイズ+低コストを実現! これからのインターチェンジ「スマートIC」

「スマートIC」はETC（ノンストップ自動料金支払いシステム）車両を対象とした新しいタイプのインターチェンジのことで、高速道路のサービスエリア（SA）、パーキングエリア（PA）及び幹線道路との交差部に設置されます。新規に通常のインターチェンジをつくる場合に比べて、用地、費用とも大幅に少なくてすむため、地方活性化を目的としたインターチェンジの整備を容易にします。また、全国の市町村に数多く整備されることで地域社会の振興にも大きく貢献できると考えられています。その本格運用に向けて、2004年10月から順次全国27カ所[※]で「SA・PA接続型スマートIC社会実験」がスタートしました。

※ 2004年9月2日現在

●スマートICの利点

ETC専用ゲートによる人件費の削減。

SA、PA、都市部など、狭いスペースにもフレキシブルに設置可能。

インターチェンジのない市町村をはじめ、各所に数多く設置可能。

・地域活性化
・経済効果
・渋滞緩和

スマートICのイメージ



これまでのインターチェンジは料金ブースを1ヵ所に集約するため、広い敷地が必要だった。



スマートICは料金所ブースを集約しなくてもよいことから、少ない用地でOK。建設コストの削減につながる。

「SA・PA接続型スマートIC社会実験」

比較的市街地に近いSAやPAを対象にスマートICを設置する「SA・PA接続型スマートIC社会実験」とは、スマートICを実際に運用しながら、SA・PA自体の利便性の向上、経済効果、渋滞緩和に対する効果などを検証する実験です。

全国初!

スマートIC社会実験

東名高速道路上郷サービスエリアで実施中

愛知県豊田市、東名高速道路の上郷サービスエリアで、2004年10月15日から全国初のスマートIC社会実験がスタート。実施期間は2005年1月31日まで、実施時間は午前7時～午後8時(予定)で、ETC車載器搭載の軽自動車、普通車、中型車を対象としています。上郷サービスエリアでは、下り線に出口専用のスマートICを設置。期間中は、主に既設の豊田インターチェンジ付近の渋滞緩和に対する効果、目的地に向かう車

両の交通分散、一般道路の利便性向上が検証されます。今回の社会実験は、中部地方整備局、愛知県、豊田市、日本道路公団中部支社、豊田商工会議所と学識経験者による「上郷SAスマートIC社会実験協議会」及び国土交通省国土技術政策総合研究所が実施します。スマートICの本格運用に向けた最初のショーケースとして、世界各国の関係者からも注目を集めています。



全国初のスマートICは「ITS世界会議愛知・名古屋2004」のショーケースとしても注目を集めています。

<http://kamigo.smartic.jp/>

スマートICの利用法

すでにETCを利用しているドライバーのみならず、これから車載器の購入を予定しているみなさん。来るべき「スマートIC時代」に向けて、スマートIC車線を通行する際の注意点を、ここで確認しておきましょう。



- ①スマートIC車線の前後に設置してある看板や、路面表示の内容に従って走行してください(通行可能な車種や時間帯が限定される場合があります)。
- ②スマートIC車線直前の停止位置で、必ず一時停止をします。
- ③停止位置で停車中に路側無線装置と車載器との間で通信をおこないます。スマートIC車線上にある開閉棒が開くまでは発進しないでください。
- ④停止位置で停車したにもかかわらず開閉棒が閉じたままの場合は、係員の指示に従ってください。
- ⑤開閉棒その他の設備に衝突しないよう、注意して安全な速度で通行しましょう。

※ETCシステムを利用しない車両は、スマートIC車線に進入しないでください。誤って進入した場合は、開閉棒が閉じた状態であるので、停車して係員の指示に従ってください。

未来のスマートIC

可能性は無限大

たとえば都市型の商業施設や、大型レクリエーション施設との接続、道路問題の解決手段として「SA・PA接続型スマートIC」以外にも、都市開発、市場創出、環境問題などのあらゆる視点から注目を集めるスマートIC。未来の社会に向けて、大きな展開が期待されます。



新築道路直結型



都市拠点型



大規模サービス施設接続型